

2012年4月3日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2013年4月30日】

団体名 ポケットキッズ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

共有体験から生まれる思いやりの子育て(街プロジェクト)

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

専門性、合理性の追求から分離性教育を主とする学校教育の現実化、障害のある子どもと隔離化し、直接の関わり、共有体験の機会と与えません。両者は、互いの社会と構成するために支え合い活動が必要で、活動を通じて、互いに思いやりを育み、共生できる子どもを育て作り出す。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

地域の小学校の教室を借り、障害のある子ども、子どもが、一緒に楽しい課題に取り組めます。「園子作り」「ふくか(ゆづり)やでこら」識字と、認めると、ゆずりとを互いに学びあいます。また、「浅草バスハイキング」では、貸(切り)バスを利用し、家族ぐるみの交流を行います。時間と体験を共有し、相互理解に努めます。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

障害のある子どもに合わせた、楽しい課題と提案します。また、障害のある子ども、子どもとよりよくつなぐために、年長者を配置します。地域の人、教員、また、教育系的大学生、一般の大学生がボランティアとしてかけ橋になります。障害のある子どもとつながりなく、障害理解者が増え、共生社会の核を養われます。活動と広報、支援者が増えます。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

助成金のおかげで、障害のある子ども、子どもが共に楽しみ、とても有効な交流活動と継続するにつれて、子どもたちの行動と共に参加している健全な子どもたちとの将来の役割に期待をします。回数と重ねることで、自然な関わり合いができていくと感じています。相互理解、豊かな共生社会の根を築きあげたいと実感します。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



桜田先生、あいさつをお願いします。



まずは笑顔のれんしゅうです！
「わらいましょう！」

ポケットキッズ 2012. 3. 3 「ふくわじゅつがやってくる！」



ほのぼの一座の皆さん



ももちゃん

ようくん



かねもちささこちゃん



たっくん



きゅうちゃん